



古今奇談芳句冊  
下

13  
3117  
2



古今事類考 卷第四

六 吉野猩猩人間遊て歌舞を伴う話



好まらぬ人よんせむやと責む。花の山とまーけんと羨せし。彼とめて。花  
 んんとてそ境は悠々。花のまうやまーやハ誰も眺望の忙しき  
 邊をとれ。そ邊とるひかぬ。或ハ雪とや多かる。きととる人の  
 此面彼面。花を以て。其奥かろ。ハんせむやの人。ハ非人。右は左  
 山の水の吉野。一うさぎ。山のふりり。同よ。吉野。その人  
 の始ま。ま。す。遊。あ。花。林。の。代。う。芳。ひ。つ。ん。花。草。の。り。の。そ  
 二。不。卓。ら。う。異。種。を。本。居。ひ。ま。う。ら。も。あ。ん。り。教。女。す。う。ね。ハ。け  
 山中の種。ハ。あ。う。ず。そ。奥。の。花。ハ。一。時。あ。う。ず。咲。は。ら。う。散。ま。る。人  
 ら。と。口。号。あ。ら。ハ。近。く。ら。れ。花。え。た。う。む。う。の。林。麻。谷。ハ。谷。よ。う。果  
 さい。添。ひ。曲。り。登。り。て。今。の。金。れ。居。こ。も。う。し。を。同。谷。の。片。側。を

古今事類考 卷第四

五

のぼりくさうてわづらあかん南朝とまうて輦路漸く開け軌道  
日は平よ花も教添よあわじ。水は流める勝地ハ文流西河よ早  
早し本源ハ巴ヶ淵とや。山より出て山を環する水の咽んで流る  
澄く此音ハ耳と行らめく川上の流流皆くは流て遙よ記よ  
達を。峯中よハ急流の激瀑布の勢もものぞ教多し。金乃山嶽の  
名ハ地主金峯の社小よるところを皆よ。いはしら密巖成乾の地  
と標く石沙も揺ふつうさうこと古くかう傳ふ。松の本立いつこ  
と連て峯がちたう乃を深くか入る。そ倍乃あぬも。西より来れ  
ハ六ッ田の波わらわたり城よくの水とやあすづさ。ようその石とや  
いつくより近くるよりそと志せまわ。山氣よ音つう怪歎除倉  
出谷よかくろひ大首小して馬尾あり。松氣ハ蹄よ踏べく。髪被つと  
る間より斜なる眼光とらめらハ。是るん義經のそり持つらう仙と

二

あり。時ありて岸よ断鳴とぞ。南の深きよハ澄つらましとや。花動  
幻のごとく。むさび年経らるそ色ぐま。世と歴らるりあめ  
し。雪城友と風を合とせり。青とつ怪歎あり。撃て倒せば風  
をひて忽ち甦る。古昔禽獸拒は備をばらつ時。人を攫て本  
よ掛らハ大蛇もやありし。それが功満とつを壓て頂巾戴り。竹掛  
披せて護法よ役せられて後ハ人を傷ハと悟。あうもやせうと  
冥もとら人もあるなり。心深きよも蟒蛇捕ぬハ金氣を厭ふ。やそはの靈  
ある神仙の宿も花ハあやうそ。天武の神振山ハ勝もれ上。藝ハ  
又回らうとらハ天瞻よのそえぬ。日花此堂の岩窟ハ洞見山よ列を  
王此よこそれ身の何れ流の雨ぞ。在五西河の幽豁ハ仙よ去。教良  
旭日乃邃窟ハ脱袴せりと。俱よ昔より俗傳ハ都藍本よと傳。轉  
乗法華を励ま。中院谷よ忠信ハ骨を移。掛板塔よ義經の名を

東川流の積編卷四

三

舞

捧く四位のき法ある改陀れ安を苔の滴水は炊き静女の妙妓たる法  
樂の舞と縹緲の中は奏す岩余の蹕路雄略の行宮は花の乃下辱う  
せど平城七代は帝家願を垂ぬふ名區異徳をわけて探んせバ法  
である人も倦やまうらん靈洞奇窟ハ修験の九穴とわらるのなぐす  
暗窟れ務を遊ぶと多く滝土の難災城ハ抱ふ凡そ洞穴乃事ハ士れ  
穿らるゝ起り又金ある山ハ必ぞ瘡あり人智の逸さいつを始と智とな  
し城山ハ護良王乃授ぬい言城れ行宮ハ建武年を累て披雨と  
なる中殿の法ハ當時のまをを摸しとつとつハ何々の内階う  
司召て加階湯をうし此の庭うや陳を結びて政成頒ちる山鳥さう  
のハ森林ううかうと叫て寥しとさささう城還幸と逆ハ安て耳と  
収バセハ大ま人の感慨深くそのうと城を殲すれ敵を遠ざけ不  
迫められぬる震襟さこそとさひてをくれ世は平ハうやとかり

その小駕をさめらうとさうと百の司も備へるを。礼儀さめらうと  
て行幸もなく亡城の軍計のなれば法マれ家の記も頼らうま  
てうと定固あわねておと云けくう中ハ護良王れ又ぬむう  
齒を咬まらる人情の情うをや世とつと後村上の内時初和歌  
とつと文女あり是ハ桃井直常の一族ハ右馬以とうり人石川の加  
名生の寺とて癸ハ一々時一人乃むすめ城吉野文中ハ官侍と  
せんら生れ聡さうハ父が膝下とて教く奥とらいつとりの白拍子  
をさかぞく舞られバ初和歌とハなれけり。はし時ハ考の局とて  
山宮の始う侍して舞舞ハ妙ハ容貌端正ハ音多麗妙ハ  
て幽情無語ハいつとてハ少人破林ハ堪ハ傾城の色ハあつて一  
とひらりの必ずさうとつとさ態あり。んさうと人心をむりて  
り。又酒を醸らる法をりて水も能遠つと初和歌才能ある人

し

英州氏中續編卷四



英州氏中續編卷四



遊了美の美を文一り互よむつましく常小御遊のかごとくも  
あり。彼ま海のわり出るるよふくくうたりたうめども。民家までも其  
戯れ行いさそんゆくまその款りのとみせり。け局の申さうハ幼少  
の時又よ具して出る羽の羽あれ下よ年経る。近き色ハ俳優の  
儀来あつて里民も技を能くそれを習ひ傳ふる。漢語よ是を劇と  
いハ俗名よそ。折演ハ拍をま何らなる。唱いものこそ物化よか  
ろを発科と同け。お譚ハ笑ひあり。態度はとあるを舞と云。個曲逸  
多れ次よ白あるとと皆漢劇の體あり。身の舉動ハ拍と收ると左  
右のこ。是とさう早く重く軽く迷く緩くともさうとさうなれども  
おほく多うくあり。御欄の舞れ左右の肩よ同様に傳ハ故あるべし。  
我つとら態よもあるいさうけ情をけきばかりはとらなるん。凡  
出ち教ハきてぬぐす。民家とらハ鼓吹のこりてこそ。そよ女ハ言短女

よは面を伏て起居易直あるべし。妻女ハ分賓けくくと敬あつて動  
作恒辭あり。妓女ハ言ハ嬌羞なく。ゆくまそふしつ常れ歩ハね  
す。半人乃舉動ハ老嫗ハ淫じやとく。少女の態はけきハ兒戲を出す  
上よ承ると下よほむと記ハ緊放あり。凡場よ上てハ形體と云んよ  
さうくつん。これ措とらうは。俗劇ハ実情さう考へ出すを且ねと  
ごととこれども。そ度をもさバ本來を失ふ。俗も技藝いさうと拙なれ  
ハ人の笑ひ欺くを情る念さうくすも生ず。終態いさうて款人魂と  
志めて息を困て吐を思ハ拙くあさく笑つら。も無ををられつ  
あうくハ角力ハ速ハ腕ハ負らるを笑ハ人の才力けよさよハあね  
ど強きも弱きも無せらう。小こそ。凡我皆志ハぬ。佳ひもの舞まうと  
辞するハ狎私のさあさう。故ハ入朝ヤハ撮の款い。是舞ト命  
あハ。其を結末の頌歌とて言こと。先先よさうて。結つる唱らる。遊

六 北涼

れ舞ぬらむ。是ら只態を舞と程成舞との分なり。笛を遙  
に近て吹出されてハ舞技するあり。二股をうらま奏を打ハ席を促  
なる態をせしむ。又曲ハ閑合を失ハハ行はる  
りの多。彼藝者の唱ハ山仕の花見ハ扇おつら。刀さしてと得り  
弱法師を妖霊星と号傳るハあつて。田樂の家よりよくひ言と  
なりて常ハかく遙なるをし。然ハあれど身れ細くハる人悦ひ  
毫のハ穿て草の初ハ、務々種あり。俗劇ハ男女混用と老旦  
成氏生ハ初とど成生ハ男優のみなり。和四酒盛の二郎ハ剛生なり  
小袖の二郎ハ軟生なり。又初と草をり。手乳より上すすと  
ども誓約の言と発作の勢ハ對子れ面を乞とんらる。宮さあり  
袖を及す事ハ男優ハふさき。こは軟生ハ今もするあり。袖几帳  
してあり。うらら顔の志を。傳ハ映る。さ。さ。め。が。れ。ハ。結。情。

か。一。是。も。昔。ハ。水。干。の。袖。を。自。づ。づ。と。あ。る。を。今。ハ。袖。長。く。も。被  
る。又。土。方。は。浚。て。一。同。あり。ぬ。あり。唐。劇。ハ。鬼。形。ハ。虎。面。を。用。ふ。素。面  
ハ。虎。班。か。くの。起。る。男。女。れ。脚。色。共。ハ。雪。崩。あり。劍。を。執。て。逃。り。の。只。と  
ら。て。刺。ん。と。逃。り。の。胸。を。護。り。願。く。東。技。ハ。わ。さ。れ。呀。ふ。頬。を。唾  
り。西。技。ハ。い。ぶ。ら。に。口。を。開。く。扱。又。舞。者。の。扱。て。る。扇。を。と。る。と。醫  
と。り。や。う。丸。の。口。を。さ。成。態。と。り。流。の。字。と。混。じ。や。さ。さ。さ。り。戲。場  
末。を。結。ん。で。観。技。の。人。を。催。し。出。す。唱。の。を。春。積。と。名。つ。研。もの。こ。り  
久。く。や。う。て。是。の。編。み。て。歩。れ。正。し。く。ぬ。を。蹶。さ。ふ。衣。ひ。返。る。乃  
拍。子。あり。て。樂。家。の。供。あり。と。世。ハ。舞。舞。と。行。ら。る。あ。ハ。主人。も。音  
妓。も。ち。り。扇。あり。て。勤。能。ハ。達。と。せ。り。姿。色。を。貪。ると。街。と。主人。乃。枕  
席。を。抱。く。よ。り。て。是。を。い。く。賓。客。ハ。供。さ。る。ハ。敬。り。も。背。ひ。致。も。態。も  
う。ら。う。う。う。て。晴。ハ。雨。ら。不。な。ら。る。と。静。く。聲。を。流。り。て。程。あり。志

天明六年

人む志を曲るも及ぶぬと日色と稱せし。そ記ハ京より幕後一死  
多し。こそそあつめれとばなるべしと。そく時傳へるよりとて折ふ  
し。こかろつてくろく。正平は始足利直義無て高原直朝と畏れ  
於に左あぐり密に南朝へ内附せんと志し。淵辺が旧後醍醐成次とな  
りりて中入まされし。南朝の謀大将高直に疑を抱く。左馬  
政正朝中。某無て回候とる。近來言倉と執りとお和せと。鉾角を  
うづ。後日の偽和と思ひ今その時よ時を待たせぬ。密にとあ  
まを許して。心を試みあつとあるふらしてを降とせせられ。越え  
らるて邸宅の沙汰よ及ぶる。志すれども直義の時言よお解へさ  
よあつこれ。北朝の噂も忍ぶれぬ。始終よん成配り淵辺二郎と  
は。て披露ハ石堂兵部と仮名してあつる。人物動作も足利の連  
枝。人ハ平日の禮言よこそと人々あつる。室よ先朝に按察の典侍あ

つ。南の方とて大塔の宮最後まで。公抱使喚せし人あり。石堂と云  
ハ直義の清りあつぬとさぐり。つて。後ち内奏して。武士よ命して  
あつ。誅罰せらるべしと訴へ求られ。腹心の文武を召て内儀  
せし。つ。近は。清りも納り。互に計策を謀り。究め。つ。不さる  
ハ高恨を交む。乃時よあつ。つと。執り。つ。つ。ひて。は。由。定。さ。つ。る  
よ。南。此。方。た。あ。つ。ハ。千。罪。を。教。へ。て。恥。り。つ。め。胸。を。居。つ。つ。と。疑。り  
よ。奏。せ。ら。る。え。ら。り。ハ。傍。り。ハ。南。朝。の。一。人。よ。り。徳。は。よ。つ。つ。て。折。り。觸。れ  
席。よ。臨。ん。て。言。ふ。系。の。根。さ。す。一。節。さ。さ。ハ。奉。裁。よ。及。付。ハ。大。義。論。なり。  
あ。ハ。敵。を。凝。さ。せ。終。ひ。む。り。漢。代。の。末。つ。つ。蜀。の。昭。烈。の。時。よ  
許。意。と。胡。潛。と。中。忍。く。公。事。よ。悔。意。さ。ら。成。勵。ま。さ。ん。と。内。へ。倡。優。よ  
命。し。て。あ。ら。れ。行。儀。を。お。ひ。務。め。諸。臣。大。命。れ。席。よ。て。是。を。抄。優。せ  
し。め。ら。る。き。あ。つ。も。あ。れ。バ。そ。是。よ。効。ひ。て。甚。と。和。さ。る。余。ら。り。臨。時。の



御柵の御伎を催さる。勘劇三場のまゝ廻さる。躑躅が城の劇。新  
曲を作り添て。戯名強探宴と稱ふ。伎ち正義を服の役。正義の態。新  
曲。和歌。南の方を拵。一ひびき。まきれ。執奏せ。城智を以て。侍人。又  
對侍せ。城智の外れるなれば。道背をたうと思ふ。是。新。新。乃  
心を探。入り。ふ。そと。新郎。以て。角。と。演。役。を。直。義。を。是。を。大  
事。あれ。と。信。丸。な。さ。侍。ま。て。か。く。一。身。を。ま。せ。ま。ら。う。い。か。い。改。ま。さ。う。く  
一。こ。こ。り。高。懸。の。誅。免。畏。れ。知。わ。ん。や。ま。こ。こ。を。ま。さ。れ。不。勤。なる。は。衆  
英の。美。ひ。を。ま。さ。る。れ。も。武。長。の。す。ま。わ。ぬ。は。狐。の。あ。わ。ぬ。と。此。文  
中。ける。標。の。柳。色。已。は。役。合。字。う。と。れ。ハ。剛。胆。は。旗。奴。を。拵。し。ひ。ま。は。村  
上。一。場。は。あ。ゆ。左。司。の。清。立。は。名。和。長。氏。を。承。る。和。歌。は。舞。を。ま。さ。る。宮  
婢。民。家。の。女。子。等。二。十。五。人。を。用。て。散。き。ハ。香。の。衣。足。代。は。立。し。ひ。  
舞。舞。監。ハ。故。條。塚。乃。女。子。伊。賀。の。局。檢。行。と。父。の。勇。力。を。稟。つ。ぎ。て。武。長  
あ。り。預。め。号。令。し。て。戲。文。は。遠。く。と。あ。り。ハ。旗。の。杖。を。一。百。打。んと。美

し。と。容。を。や。う。か。る。流。眺。し。え。か。ら。ら。ハ。花。の。下。は。暁。て。電。光。は。お。の。く  
ん。地。ま。り。ん。森。の。内。柵。な。ま。ま。も。遠。殿。は。弥。辺。の。内。簾。を。垂。て。若。の。内。柵。を  
新。設。け。文。武。班。列。し。て。次第。を。絲。竹。金。鼓。ハ。幕。の。内。は。御。一。第。一。は  
守。屋。稻。城。軍。の。衣。摺。櫓。茅。二。は。西。國。落。の。靜。舞。也。圍。已。は。流。り。な。く。舞  
し。て。躑。躅。が。城。乃。旗。与。ハ。ま。や。ひ。あ。る。相。ふ。ま。は。と。上。下。目。を。拭。て。待。り。待  
て。な。ま。れ

躑躅城旗典

あ。か。り。踏。る。後。な。子。可。れ。も。目。が。あ。る。さ。さ。ち。子。娘。ぶ。づ。一。若。ハ。山。路  
は。西。つ。り。も。な。く。い。や。り。し。く。も。扱。も。我。還。は。く。ま。う。し。て。つ。ど。が  
城。保。ち。か。く。ま。ま。が。お。ま。ま。を。ま。ね。る。が。師。傳。ハ。い。ま。ご。ま。ま。が。ら。り。と  
い。や。と。只。今。逃。つ。さ。な。う。て。い。皆。く。内。侍。ち。う。く。内。侍。う。い。へ。を。拵。く

る農家のやいはい前此乃を芋瀬の庄司ウ塞ぎて落武者を  
ふとこそ。君も己も修験道に立寄しぬきい。心伏よおいては不足な  
く別業ありき。いづれも若くは款が君を取らざる時。某一と  
たう。計畧をいふ。内跡よつてきて救ひきり。又若くは故なく通  
し。まゝに後進し。うも某をり通し。中へくとぬい。バ義照ハけ。而  
まためし。内後より。あふむる。その。あつ。大切の際。は。臨んで。内傍  
を。誰き。なる。す。ハ。何。を。う。ん。ゆ。り。なく。い。とも。内。免。を。を。あ。ら。ぶ。く。ぬ。い。能  
ら。が。師。傳。程。を。く。ま。う。我。よ。遅。し。む。づ。く。び。皆。く。ま。う。と。暮。ん。や。を  
け。辺。の。奴。原。を。あ。ら。う。とも。行程の。す。れ。を。ご。今。ハ。我。を。遅。り。ん。と。む。む  
う。い。ひ。べ。い。く。たい。ぬ。う。や。綿。乃。内。旗。を。此。よ。傍。め。なる。ハ。大。丸。下。乃。ぬ  
原。此。旗。を。い。ふ。ふ。え。ご。と。物。う。と。云。も。あ。く。ど。旗。竿。よ。も。我。格。を。バ。旗。奴  
ハ。旗。を。放。と。と。す。ま。の。を。旗。も。ろ。とも。中。小。提。げ。傍。よ。障。る。大。の

男。残。り。ひ。扱。て。回。み。又。許。抛。う。ち。や。り。内。旗。も。ご。と。う。肩。よ。か。け。ま。乃  
内。後。進。て。也。怪。力。勇。氣。ぞ。め。と。ま。う。と。武。畧。の。程。ぞ。め。と。ま。う。と。云。  
司。ハ。是。よ。肝。を。け。し。く。抛。陰。より。ま。う。出。て。背。を。見。や。う。く。め。が  
さ。せ。と。あ。れ。い。と。口。を。け。さ。ら。る。ま。い。に。と。と。ゆ。う。て。よ。し。く。我。よ  
損。益。を。一。彼。が。随。ま。さ。く。一。や。も。老。も。い。遂。り。ぬ。く。い。斗。も。ま。る  
年。も。云。司。ハ。い。と。舌。を。吐。き。返。し。義。勢。ハ。あ。り。う。う

同 撰宴

吉野といふ邑の名ハく。君来まを。ご。か。ご。う。や。を。は。る。つ。る。建  
武二年。鎌倉の七宰。よ。て。直。義。よ。裁。せ。れ。ぬ。つ。大。塔。宮。は。結。符。せ  
皆。又。と。や。女。う。て。は。最。前。あ。い。ま。つ。一。が。塔。を。築。て。相。掎。入。り。大  
軍。を。あ。ら。ひ。一。も。岩。菊。が。及。ん。よ。落。さ。れて。村。上。義。照。内。名。を。編。ま。り  
つ。一。れ。を。と。し。て。衣。履。切。ら。る。と。返。う。の。再。ひ。就。蹕。れ。と。ま。る

義池

十

土地となり。かふし。さうれ昔ハ葛原乃誰ニ倣ヒ。是ハ幽栖の養ニ  
 興ル。今ハ義帝の恨ハ日ニ。子ハ漢楚の業ニ移ス。こトモ世  
 又ハ。くろし。足利の速技。高階。か。乃。肩を壓され。罪を悔て。悔り  
 多。く。く。も。友軍。此。大名。皆。大。酒。遊。る。と。舞。む。め。を。め  
 一。ひ。ひ。ハ。ハ。ハ。舞。妓。の。中。に。て。ま。つ。い。お。い。う。め。乃。後  
 け。や。ま。時。は。時。め。今。ま。う。新。し。な。福。の。門。千。筋。引。ら。る。白。沙。を。右  
 左。に。ま。ひ。ひ。る。適。よ。せ。の。板。を。磨。く。大。紋。の。風。を。舍。め。一。郎。等。の。く  
 つ。よ。ま。づ。る。簾。は。く。一。筋。引。け。る。幕。に。入。る。客。人。の。敷。ハ。け。く。ぞ。小。苗  
 又。ま。ま。よ。こ。本。一。草。は。能。土。居。も。縁。に。礎。石。さ。樟。木。も。時。よ。ま。づ。る  
 花。の。宴。新。茶。も。て。磨。の。酒。の。量。も。な。ぜ。ず。い。ハ。あ。り。く。内。進。め  
 ひ。て。席。を。抱。へ。り。と。れ。う。と。ね。う。い。い。山。海。の。珍。物。を。池。を。の。り。ふ  
 い。ハ。誰。も。も。景。の。か。さ。う。た。う。い。い。づ。い。づ。い。づ。あ。る。物。教。を。も。れ。已。引。お

こ。ま。あ。ん。小。白。拍。子。ハ。何。と。そ。運。こ。そ。た。は。只。今。ま。う。い。づ。拍。乃。毎  
 此。附。ら。る。様。終。り。又。こ。い。程。又。端。の。屋。に。縁。ハ。せ。垂。い。何。条。拍。さ。出。し  
 しく。畏。う。散。き。ハ。書。た。め。め。ハ。花。の。母。に。立。て。白。ひ。も。色。も。何。り。せん。  
 あ。ら。不。興。や。席。に。座。ん。て。烏。帽子。も。捨。て。髪。さ。被。さ。て。振。り。た  
 る。ハ。何。の。様。終。ぞ。是。こ。そ。和。殿。が。命。し。て。害。し。た。る。大。塔。文。の。いま。を  
 此。ま。さ。ぬ。ま。て。あ。ん。ま。さ。拵。七。の。穿。と。ハ。地。を。堀。下。し。て。板。ひ。さ。し。  
 月。日。の。光。も。い。づ。こ。そ。朝。夕。の。湿。気。も。い。づ。こ。そ。り。ま。う。す。ま。ら。ん。ば。い。終  
 子。を。さ。ひ。う。け。と。も。利。す。刃。口。に。啣。て。咬。碎。さ。懐。怒。の。焰。を。吐。て。薨  
 一。め。ハ。猛。勇。ハ。相。と。ろ。く。悲。し。く。て。身。も。縮。み。拍。も。さ。え。さ  
 了。是。朝。命。も。あ。ら。で。私。曲。の。趣。も。何。す。や。直。み。我。ハ。く。面。を。伏  
 せ。言。づ。こ。詞。の。出。を。こ。時。言。ハ。お。る。を。此。汝。も。出。く。酒。ま。り。ん。足。利。殿  
 乃。を。始。終。の。討。も。引。ち。づ。丹。波。路。さ。し。て。横。さ。り。し。小。方。井。ら。る。拳。執

長中下巻 讀品 四

足歩までと踐蹊され。直義まゝも面を伏す。名和乃長氏客の座  
より。いりよ白拍子。益ふと生事を決けんよう孫一々今様を舞はく。  
殿ハ友軍最初の忠臣舟の上れ行宮の家と身を志せたる指折の  
門ふも。知しむや赤松一堂の領主。或は横又帰朝家を詔し。我  
より与へて送る家足の計策。公身よ出て踐蹊され。積又足才  
将家れ計畧を失ひ内乱を起てけ朝一形骸ハ傳らんむせ漫る貌  
れを棄り足歩よつきて踐蹊され。是ハこり家事よ及びひ。皆外よ  
と推量の無言と存い。名和がけりから上ハ何を隠しかえんとて  
これよりふつハ。赤青帰る測辺を言されて。その時の内事さぬと今様  
よきて。かひるさし。よて足中さし。そい。は。信より。て。直義辭を詔  
せ。一教の果子を勅せられたれども。は。後ハ。ゆるさ。せ。あ。と。年。幸。れ。言。を。の。づ。時。信。が。え  
乃局決杖。え。な。け。り。あ。く。打。ん。と。す。る。眼。ご。あ。ろ。く。や。ろ。と。感。度。よ。つ。と。と。て。

十一

測辺を言されてもまゝい。甘受つてい。官人。土宰。又。内。府。乃  
不。心。地。抱。抱。ハ。く。と。つ。せ。ぬ。よ。と。承。り。内。髪。を。刺。ら。せ。た。ま  
ち。く。内。心。地。さ。し。く。と。と。測。辺。よ。お。ほ。せ。て。内。髪。刺。を。せ。し。と  
け。し。を。啓。し。く。ら。よ。内。心。を。や。く。も。か。り。つ。つ。せ。ぬ。ひ。て。内。力。ハ。強。か  
る。ら。り。せん。方。辱。て。測。辺。が。身。を。脱。せ。ん。あ。乃。不。考。なる。よ。内。首。城  
を。な。れ。と。せ。さ。し。ひ。ら。と。り。て。言。語。通。断。を。時。迷。よ。領。一。和。の。邊  
や。執。居。り。つ。け。て。ゆ。い。や。何。程。よ。詞。を。か。ざ。り。い。も。測。辺。が。罪。ハ  
誰。り。罪。ぞ。や。朝。家。の。頼。と。信。せ。守。さ。大。塔。を。空。し。て。舟。を。振  
ち。ん。下。を。楚。人。の。義。帝。ふ。も。ま。さ。ら。一。罪。を。將。し。め。信。ハ。誰  
と。踐。蹊。され。直。義。自。ら。罪。を。知。り。い。今。ハ。宥。さ。せ。お。い。し。を。せ。は。る。ん  
今。ハ。憐。れ。う。ぐ。散。り。て。こ。そ。ゆ。い。と。歎。く。べ。し。九。重。を。押。し。て。一。玉。子  
を。賣。ひ。あ。ら。り。あ。ら。す。是。え。來。宮。乃。足。利。よ。及。ら。ら。ハ。君。れ。内。肉

長州家口書簡三十四

十一

十一

東州山行續編卷四



東州山行續編卷四



意ありきれば。是利より恨めしき。敵を思ふと帯は脱く。さら  
後ひし。人同れ種なりぬきへ。情むせづ。の財乃変々日の味方ハ  
明日乃款といかふ。君が為は。旗掲げおほせす。生を殺し。仁罪  
を守ても。居等の迹ハ。ちらづき。實是より。今更り。隠れ。角とな  
り。さす竹の大。友人ハ。花は。結り。くし。根が。嶽ハ。色も。と。さ。さ。り  
字多の。富士。ね。接も。ら。ず。幾。来。文。此。甚。の。お。け。や。乃。さ。や。さ。さ  
日つ。これ。ま。居。ら。る。

直義面因。掩て。舞。收。せ。ハ。衆人。宿。を。悟。り。一。日。は。散。り。て。去。り。も。直  
義の。こと。を。さ。し。扱。う。さ。り。し。を。称。義。す。理。り。う。ふ。直。義。降。り。ま。る。身。を。用  
ひ。して。且。ハ。水。か。へ。り。れ。雪。く。ぬ。石。堂。と。仮。名。さ。る。ぬ。さ。あ。い。近。長。花。光  
二郎。之。属。経。別。容貌。似。る。を。初。より。假。り。乃。形。代。と。して。その。身。ハ。右。左  
八。節。と。て。末。の。者。と。なり。か。ら。る。こと。は。後。に。も。之。ハ。す。南。朝。人。な。り。と。公。は

# 北条

さし

笑ひ。公。を。り。て。即。を。さ。り。わ。る。正。行。ハ。降。人。の。名。を。た。え。り。又。降。小。齋。と。呼  
ぶ。彼。も。大。座。の。名。お。い。う。答。え。と。傍。觀。せ。り。舞。態。の。音。と。引。く。り  
小。布。人。は。あ。ら。う。さ。う。さ。う。と。云。ふ。誠。意。と。共。に。新。郎。は。初。て。其。の。假。名。せ  
し。石。堂。殿。は。面。せ。んと。す。直。義。も。つ。こ。う。假。名。の。つ。出。て。對。面。に。初。て  
ん。て。高。深。の。み。く。英。雄。の。斷。機。を。あ。ぬ。を。う。か。わ。そ。の。執。念。さ。か。と。く  
も。云。ふ。及。わ。り。し。と。う。か。代。の。系。内。ハ。改。は。経。ぬ。り。正。行。後。に。さ。軍。務  
れ。乃。と。ま。う。さ。り。と。南。朝。の。高。制。を。詳。く。告。げ。引。く。り。く。い。さ。し。を。應。ま。下  
て。的。を。射。り。直。義。ハ。人。殺。す。ら。ハ。我。は。ま。さ。ら。る。もの。さ。し。と。何。を。う。け  
て。云。日。月。を。愛。く。新。田。殿。程。は。あ。く。とも。我。よ。く。的。中。せ。ば。一。と。び。ハ。友  
軍。ハ。帥。を。編。み。ん。心。行。云。小。長。能。的。中。せ。バ。公。と。り。つ。く。と。奉。り。帥。は  
ら。んと。對。し。射。う。と。志。む。く。お。し。て。さ。ら。に。中。を。り。て。退。く。ゆ。き。は。臨。て  
公。の。今。更。り。ハ。容。み。な。う。滞。る。あ。ら。う。と。云。直。義。收。び。て。私。の。後。は。所

直が強梁をかろて進退を可ふ心算云。公ハ水方よかろて威勢を包こ  
 て待り、近年は師直必ず教玉の軍を率て三城南よ向ふ。我戦  
 して死生を決せん。其云の領する西播の地ハ人勇は素内もたう  
 し。是を加誘はかまぬ工夫しては朝の忠は偽らぬ。師直死せずとも  
 軍は打負をハ勢持表へ。勝るべればかひよく安らぐ。是を時心腹  
 此一族を召しては朝は後へ来り。正行は代りて軍府を司り師直が  
 害を廻りこころ一族の送りこらあつた。公の忠勅を記ては指揮は流  
 ぶべし。そ言の理あるは服してはおろし難き。慧源と法号し  
 小ハ師直が終ひを教ふ。時高りて身を保つ乃始終。南ハ後  
 三王此幽魂を慰へ。三年の後旅を廻るの張本とせり。初て後ハ和死  
 乃お許ハ和田ハ某ハ嫁へ。條塚乃局ハ楠正儀の妻と。吾阿とぞ  
 時高階の執り威持於鄙は赫と。隨從をりり夢の局ハ容儀

ありて妙算あるを併く受て。是を取てそ與は侵へんとて日比向者を  
 南朝は後をとりめ。いりりて盗み出へん。是と行國之持て終の  
 山路の間乃を多く。右町の武士逐まらて雲を遠きハ来り。こも  
 迎ひの兵卒教培て。改ハ斯候は及むんとす。かろて一信も出さる  
 其の局裏の内より魂と出り。紅梅の小袖ハ赤き袴の裾を曳  
 て去の目くらめく。そ岩上ハ山より。赤く向つて。我を伴抱とら  
 子怪と小して怪を知らず。世れ人ハわら。我性情ハまじ。そハ  
 あハサヤ知らんハあつた。赤髪を披く。素服を。彼程ハ公而れ母る  
 ろりのハ海島の野人あり。磯うつ波の音。芦素そよ風なうてハ路り  
 ぶつ。我ハ名山の暮杖ハ巻て幽篋乃忍まを慰めん。がわは地は遊  
 息す。何ぞ他人を慰めん。日こそ我停ら限り。ハ兼てんえ。我方  
 れん。そさのえつと能く。終て年法位偶の思を謝し。わん。

高

色を窺ふこと、蓬が島の遊ひ長く、西厨は己が破せし西酒の山宮の  
瘴氣を除き、寶篋と悟らば、安し下臨して、人々を治む。  
此の皮は、かくこくも、西坐せしや、えて、翡翠の書、發ち紅鶴の絲  
弦、乱し、きく、飛去て冥々と、や、あ、ね、南兵、北家の間  
者を、逐、拵ひて、ぬり、きり、け、由を、述、し、笑、く、是、と、な、ん、若、世、得、と  
と、や、え、づ、こ、彼、山、ハ、秀、靈、の、救、済、な、ま、き、ば、あ、く、

七 大高何某義を、屬し、影の石に、賊を射る話

南朝ハ元中九年、北朝ハ明徳三年の冬、南、北、和、義、個、て、さ、り、又、十、六、年  
よ、て、一、統、す。然、ま、も、小、朝、の、玉、も、君、臣、治、す。多、く、あ、る、ま、ま、し、て、南  
方、れ、高、家、遠、恨、散、せ、ず。然、堂、時、し、起、り、一、統、の、後、又、十、三、年、小、朝、乃、文  
安、元、年、小、つ、り、ま、く、皇、流、を、奪、り、て、權、起、し、西、南、の、玉、も、号、令、を、り  
し、已、七、年、法、方、の、武、士、来、り、地、り、の、日、又、加、り、て、勢、ひ、希、代、と、え、ん、水、ハ

を、屬、國、れ、貞、抽、水、は、浮、陸、に、轉、ど、て、あ、り、ま、り、伊、勢、の、後、孫、兼、政、ハ、多  
氣、郡、よ、て、有、有、の、と、え、あ、り、**此**、先、朝、よ、め、ま、ま、て、西、飛、り、り、ま、る、と  
せ、し、る、そ、子、兼、次、系、向、し、先、朝、**下**、傍、に、置、れ、る、米、涉、幾、を、城、上  
納、し、於、中、バ、の、り、り、り、ハ、初、に、充、て、後、よ、り、幾、ら、も、は、さ、れ、ひ、と、り  
小、一、朝、振、ハ、く、先、例、に、依、て、集、人、佐、と、は、さ、れ、る、保、昌、又、命、が、家、に  
ま、り、ひ、ま、り、お、り、の、義、振、義、勝、を、歎、し、ま、り、そ、の、後、法、お、先、代、に、持、け、  
る、例、に、ま、り、し、て、進、む、程、に、味、方、の、法、士、も、い、さ、り、し、く、ぞ、ま、  
え、る、南、朝、柱、石、の、序、ら、捕、正、勝、ハ、合、終、の、時、又、正、儀、に、別、立、し、弟  
正、元、ハ、京、に、入、り、仇、を、刺、ん、ど、て、遂、に、忠、死、す。そ、後、ハ、十、津、川、に、入、り、  
已、十、四、年、時、に、及、て、老、を、極、む、と、い、ふ、も、然、烈、を、失、ハ、す。高、居、に  
系、向、し、て、衣、と、共、に、興、復、を、計、る。又、大、工、れ、を、了、り、傳、る、國、規、と、て、匠、材、の  
上、を、あ、る、が、皇、宮、の、儀、を、畧、し、移、ん、ど、ま、り、た、れ、を、さ、り、は、ハ、あ、り



ねともしつ 面りけちうろを授せしめんとして庚午の秋小淵より左衛  
此要害に帝居を經營しける。小山の庄と稱せし。此地、輜迤岳を西  
にんで。東ハ勢乃飯高へ僅に近し。帝居を造られて後ハよりよき  
て系家のへこそおなれぬ人と思して。まう仕りりのもうなり  
し。造営成つて三年をうり。後同島之帝を傍中邑に帝次命。あ人  
来て知音の云々小よつて。隙を待ひ存をなむ。そ相。是ハ二人が信  
来の主人石見を命が本意あり。石見ハ本赤松満祐が家人なり。赤  
松法人の御まかり。小方よて出身の害をなし。家と起し。こあ。さ  
南朝れ一方成り。血脉を一那。も任せ。我あ人を存せしめ。身  
ハ小京に在て。南方れ。同者をかさんと。所なれ。越を南帝可し  
て。そのり。義のつた。これ例もあれ。是を納人と。法士よ。任せて。正  
勝よ。討る。正勝熱思して。尸ハ。い。う。乃。時ハ。我朝。執勢。ひ。あ

北

大

了。今日。及。表。へ。を。換。て。小。方。の。被。友。志。を。傾。け。ん。父。正。儀。が。在。し。時。  
河内。に。居。る。う。小。方。に。降。り。し。も。君。が。世。も。家。代。も。つ。と。と。始。終。を  
嫌。め。ら。り。し。け。り。必。ず。拒。さ。り。と。保。々。れ。と。帝。ハ。偏。よ。人。を。任。ん  
と。思。い。ら。れ。れ。時。か。き。ば。な。つ。け。て。儀。と。よ。を。後。に。導。ひ。ら。ハ。不。日  
よ。あ。人。南。朝。の。い。う。日。勤。仕。り。他。事。さ。く。小。方。大。小。乃。奉。止。日。夜。告  
あ。つ。て。奏。違。と。あ。才。幹。不。し。上。の。旨。も。り。か。ひ。忠。を。尽。す。と。人  
え。ら。る。正。勝。が。信。へ。も。り。を。伺。い。謀。り。下。知。を。交。け。卿。家。意。を。用。る  
こと。なり。正。勝。も。是。を。引。け。て。常。に。信。り。或。時。中。邑。に。信。く。夢。執。り。の  
先。云。ハ。張。良。が。信。く。ら。三。四。石。肝。要。れ。を。一。枚。尺。ち。ひ。て。武。器。秀。法  
ふ。と。あ。る。主人。石。見。幼。少。の。乃。よ。是。を。授。け。と。身。分。も。片。端。を。承  
り。信。く。と。こ。所。な。け。様。の。事。も。け。朝。志。を。ハ。く。傾。き。な。ら。う。今。國  
を。日。く。て。忠。勤。を。分。つ。と。大。器。を。授。け。ら。り。共。に。朝。家。の。益。も。か

るべしとせよとひ入て中ふぞ。正勝云。今同一の味方となりて身  
 二公えらること秘す。さよあはれ。志り。是等も。必竟ハ忠信を鑑  
 小して身を引ひされ。木刀こそ戦ひ。ちりても。木刀こそ勝。とあ  
 たはら。ら。と。魂定。と。さ。ま。用。は。堪。へ。ど。世。よ。六。韜。三。畧。ハ。七。ツ。書。ハ  
 教へ入。せ。され。と。秘。め。傳。ら。れ。軍。法。ハ。今。日。戦。小。の。帯。ハ。別。々。と。勝。る。お  
 ち。一。張。良。の。黄。石。公。ハ。文。る。三。畧。と。い。ハ。上。中。下。の。三。計。と。い。ハ。い  
 来。よ。と。て。遲。速。急。の。三。ツ。戦。平。旦。鷄。鳴。半。夜。ハ。破。て。如。此。な。ら。べ。し。と  
 説。示。し。そ。時。ハ。高。り。と。王。老。の。師。と。あ。る。と。さ。を。退。の。急。務。を。辨  
 す。本。朝。の。む。り。一。入。鹿。れ。後。を。傳。ん。と。て。強。足。公。相。学。ト。托。く。南。洲  
 先生。の。亦。ハ。送。迎。の。路。上。と。て。潛。ハ。大。事。を。計。られ。し。皆。密。事。あり。て  
 一人。ハ。後。り。と。あり。今。和。殿。も。扱。け。と。さ。る。あり。凡。そ。事。ハ。臨。ん  
 て。上。中。下。を。定。む。し。先。下。の。策。ハ。許。多。二。の。忠。を。尽。さんと。され。た。

新系あるをい。重く任用せられず。本朝ハ六ヶ國今の授。而山深く攻  
 撃の及が。さ。成。憂。へ。ぬ。忠。の。老。を。以。て。け。朝。を。傾。け。んと。する。時。か  
 せ。ハ。短。急。よ。ん。變。り。て。新。系。成。投。を。う。て。小。ハ。悔。の。志。者。ハ。そ。身  
 此。生。死。い。ま。ご。知。べ。う。と。い。ハ。或。ハ。是。を。劫。と。して。主人。の。家。を。破。さんと。欲  
 す。とも。え。来。赤。松。弑。逆。の。罪。と。て。面。を。出。し。か。さ。さ。よ。又。弑。逆。の。罪。を  
 を。功。み。て。前。の。罪。を。免。れ。なん。と。ハ。國。ハ。不。忠。を。あ。る。ため。し。て。  
 後。必。ず。それ。ハ。傲。り。の。あ。る。ん。ぞ。故。ハ。執。事。の。人。あり。と。も。是。や。ら  
 ハ。智。長。あ。つ。て。納。す。却。て。罪。名。を。守。ね。づ。し。中。の。策。ハ。國。今。新。系。の。初  
 念。を。變。せず。石。見。俊。ち。赤。松。の。嗣。子。と。共。よ。ま。て。け。國。ハ。屬。し。け。朝  
 此。皇。運。ハ。危。し。と。世。を。一。統。せ。ハ。勿。論。和。儀。御。も。愚。長。と。帝  
 の。行。宮。と。る。所。ハ。從。つ。福。徳。あり。とい。へ。ど。赤。松。の。士。ハ。殺。了。れ。先。人。の  
 罪。名。却。て。主。事。ハ。後。り。子。孫。後。世。ハ。恥。む。こと。な。り。と。白。の。利。害

八十 北榮

聴居るるは肝腎と云々なりて是れを面を低しと云ふと云を張  
て何事と云ふと推して其後勝を用ひぬ。今更の上北榮ハ何と  
向ふ。正勝云。上の策を言かす。中色もいりて争ふと希ふ  
正勝云。是をいりて耳より入るまうく存せしむ中なる。今紀勢河橋の  
向ふは朝へ内志残属する大敵二三人なり。其時換積の力を借りて和殿  
友人乃進退を思ふ。小方は流言せしめば主人も其も禍ひよるべし。  
その時罪を免る兼ての方便ありや。たらくハ急よ思ひ立ちあせか。  
友人倍長と云ふと赤松一族の末あり。名は播州へ行々  
赤松満則は誤して彼を味方となし。近山名を向して満則を  
攻つて我を告す。は時我山名を従て攻つて満則と云  
を合せ戦を返して赤松を攻む。己ハ河内の畠山をわたりて宇治  
小栗栖を出てと云ふ。赤松乃里見原田は約本一同時に旗本と

せて敵前を張る。八幡は室居亦従て。満祐の血脈政則  
の家を起すハは時なり。と分配の速なりと取上り丸を走す  
がめこれ計策。同次は答出り。正勝又云。是ハ日残空しく送る  
ぬ上策なり。播州は後事難義なり。たわハ狐は化をぬ  
るよ似これ。小方へ便り求めては土地の構ふる事成あらし  
回しておろ。好時を告知す。表裏よりてなりて。身を  
全す。是上策なり。中色勝を射られて後の解説あはと  
探りし言を。元とわけ。感徳の徳。明断の事。不迷。不  
足。是覚悟を中し。と云ふ。称万辭して退さ出づ。正勝公を副て彼二  
人を外野の勅役と配り用ひ。肉よりハ用ど。二人も新来をば斯あ  
るべき事と云ふ。向ふは命を請。林芝の供物。事。事を正勝と  
計り。甲。事の序。は。置の。没。時。武。家。清。を

北榮 八十

八

九

武中 卷之四



武中 卷之四

る神聖特しく。是して何をきくとして。誰う下まの正一やこと中。  
 正勝云。是ハ武家の謀ごとくことあらず。君の御身よほひりや徳あきば  
 して。皆身命をなるとあり。神聖のまきよう。け朝の百も。是らまはぬ  
 此も量成抄り知んとする京家の人よこそ秘とぞれ。味方も誓約  
 の人は非ざれば告ず。志りあう。國の富有をば知れば。頼みあるあり  
 と。長府よいさふ。二ツの若と取か。志をば。是を神聖とも中さば  
 じくひふまき。軍家の三寶とよる地人。有の地ハけ朝乃。播磨とそ  
 天竺乃。乘害大船の機。非ざるといふ。人の知る人ハ。伊勢の園司  
 先代の高家海を。傳る。回。此皆高民なり。新中。是は。海内土地  
 よ。是らる。家の子あり。皆墳墓を。枕とするの志あり。有ハ。役は。若あり  
 と。私寮。今。し。論を。枕て。用り。し。め。此。守。磯。兼。政。が。一。紙。千  
 貫の。記。文。一。紙。千。俵。れ。券。子。教。ね。若。よ。充。と。う。け。と。交。傳。し。ず。し。て。ハ。良  
 亮。が。才。あり。て。も。戦。ふ。と。あ。て。は。ず。校。鬼。常。は。三。窟。の。計。を。ぬ。し。乘。人。懐。て

亮が才ありても戦ふとあてはず。校鬼常は三窟の計をぬし。乘人懐て  
 兩頭船を踏とれ。諺あきど。あ次船を踏とハ人長れ。好む不あり。次  
 とことす。同作。時。の。厚。さ。よ。勢。と。四。世。の。將。材。之。一。切。ず。と。称。款  
 す。秋。生。を。喜。ま。り。け。不。の。増。記。も。よ。く。十。六。年。よ。及。び。り。時。は。南。朝。乃  
 元申元年より。六十九年正月二十九日。日輪。東。よ。空。り。て。二。形。並。び。り。勢  
 時。う。て。一。形。ハ。漸。く。消。失。て。一。輪。と。あ。り。正。勝。奇。な。る。う。ふ。と。ん。と。あ  
 て。天。を。仰。て。き。款。を。り。し。教。ね。已。ぬ。ら。う。ふ。已。ぬ。ら。う。れ。と。志。す。一。言。を  
 ふ。く。忙。然。と。り。傳。は。尾。輪。海。邊。よ。生。立。ら。る。が。等。て。中。や。う。是。を。我。邊  
 よ。丁。ハ。日。法。と。名。づ。け。陰。多。ま。り。ん。と。し。て。ハ。を。兼。つ。く。と。同。又。ち。あ。り。と  
 あり。何ぞ大將の妻なりとあらん。正勝何れもあく退きて。腹心乃  
 一族。は。傳。り。ハ。九。日。月。の。徳。ハ。古。今。一。な。り。只。今。時。の。地。元。れ。を。く。小。上  
 子。を。屋。を。是。し。す。彼。海。邊。ハ。さ。も。あ。ら。ば。あ。れ。我。ハ。山。中。よ。是。と。入。る。時。ハ

二十

帝土の眞廢はかりつとる日輪一うへ田をを徳し。強ふあわ。  
今あれ日のまひゆるや。そ一ハ映して傍らるる。傍らるりの邊は  
滑して一はなす。是れ新於裏へて善於さつらん。皇運の致すべ  
と不たうと深く憂へられども。味方れ軍威孫増けさばひひする  
るよあねど。軍務は務きくおるね。そ冬の比。正勝久しく小島殿は  
強うなれ。彼は音信て時の要待して居るついで。河端の正盛は  
完よりうて。そ宵ははよ敬高とぐと。腹巻とて足と伸しける。初  
昏は露は出て。喉を乾く。いんる猶よ弓の矢更低き。穀  
を失ふ。ぬし。いぶうて。是必ず城堂を候をゆる。或ハ大切の仇を脱  
とをじむらうと。急よ正盛は告て見せし。正盛はるよいさう常よ  
りいず。け星のぬし。い遠く申うよん。く舟をさるが自給の天乃  
あり。翁の目とて迷ひされし。正勝改を撰て。今内辺は守屋乃身。

朝儀は興す。南朝の天文堂は入る。我目よのこ迷ひ見ゆは  
南く海切なる所のわづらう。次子善れ。光さへん。うりあり。近江  
鳥合の右軍執事のお事あり。まゆりか。い。うに安逸して。明  
目を納は。穢は。高ることあり。と。是時。是。微行の。は。老。人。か  
ま。人。般。を。後。け。め。と。國。司。の。方。へ。人。を。以。て。告。ゆ。ま。は。十。餘。人。使  
道とて。東川は向て馬を馳らう。寔は。同。中。色。ハ。神。差。を。奪。ひ。て。南  
帝と失はんと。際をうらう。と。正勝兼て。え。て。近。侍。ハ。内。属。し。ぬ。ま  
そ。其。後。宣。を。ほ。す。南。帝。兼。て。是。の。お。家。は。潛。幸。あり。と。さ。お。右。あ。き。と。  
正勝は。降。つ。て。た。め。し。ひ。め。と。之。し。け。時。彼。が。家。は。あ。り。と。る。城。人。を。下  
格。子。乃。後。龍。口。と。て。名。の。つ。て。返。り。遊。ひ。ふ。う。と。み。比。六。位。飛。人。等。よ  
駕。を。命。せ。し。れ。戎。服。百。さ。れ。女。う。し。脚。し。て。庶。を。安。せ。り。み。か。ら。う。海。松  
は。神。宮。在。す。内。殿。の。方。より。中。色。乃。出。ま。る。内。お。を。家。人。は。負。せ。や

のまの谷 讀編六四

三十一

南帝怪之。同せぬ。時、有人、輿乃下まわりて、呼らば、腹又も小敵  
 襲ひたり。人、請様を、只今、ほとと北より、告知せぬ。よ。先、邪惡をかく  
 してこそ、山坐を迂し、なからんこと、謀しげく、奏されぬ。も、此、誘脱よ  
 かんさ、かけき、ハ、幸よ、内、輿を、けり、させぬ。有人、劔を、ふり、供、有、乃、輿  
 丁を、追、も、し、ひ、南、帝の、内、を、捧、き、た、右、より、去、へ、二、三、里、を、う、り、切、時、  
 南、は、我、ハ、囚、を、と、ひ、たり、じ。こ、こ、に、命、を、傳、へ、と、宣、ひ、て、き、て、執、り、せ、給  
 する。今、ハ、こ、中、色、勿、辨、さ、ん、と、裁、し、な、る。ま、ろ、れ、内、衣、甲、胃、と、さ、さ、る、哀  
 ころ、ふ、南、帝、の、南、ふ、あ、ら、や、こ、ろ、ま、ろ、こ、ま、せ、給、ふ、小、朝、乃、長、孫、元、年、け、時  
 十二月、二、日、な、る。輿、丁、が、叫、び、よ、び、も、ろ、ふ、武、士、多、く、出、て、追、來、る。有人、を、や  
 り、と、取、り、こ、む、と、の、ご、あ、り、て、今、ハ、身、も、つ、り、せ、な、れ、糸、の、石、を、後、干、よ  
 と、う、て、大、志、よ、つ、く、ち、う。我、ら、ハ、小、朝、の、命、あ、り、て、南、帝、を、還、治、し、て、保  
 る、か、う、り、ゆ、う、後、日、乃、罪、を、知、り、ず、や、と、云、て、家、の、人、に、さ、す、不、明、ま、こ、  
 よう、せ、ぬ、ひ、て、呼、ら、の、答、も、ろ、と、云、ん、人、皆、後、日、を、願、う、る。是、時、大、高

恥、又、所、ある、の、ん、到、り、義、信、あ、る。そ、日、よ、く、起、て、田、を、こ、ん、よ、り、人、と、  
 る、不、よ、人、殺、し、ぬ、ろ、と、叫、ぶ、勢、耳、よ、ろ。あ、ら、ら、た、た、ぞ、こ、ま、ろ、  
 ひ、ま、ろ、東、なる、大、石、の、お、り、有人、あ、る。只、今、貴、人、を、殺、せ、し、て、一、  
 内、甲、を、強、よ、ま、ろ、ハ、南、帝、を、打、な、る、と、遠、か、く、と、衆、を、塵、と、  
 た、か、し、作、ら、ゆ、ら、ハ、明日、の、義、あ、り、今日、ハ、今日、の、義、あ、り、服、れ、あ、ら、ろ、  
 又、恩、人、と、し、志、を、り、て、一、人、を、射、り、胸、を、透、り、て、一、箭、に、斃、つ、く、こ、れ、  
 中、色、な、る。る、勢、勢、決、い、ろ、ろ、ろ、殺、ん、て、志、を、り、此、衣、甲、も、打、た、  
 あり、て、の、ろ、ぬ、ま、ろ。矢、は、遠、ざ、り、ま、ハ、教、を、あ、り、し、人、を、お、め、大、高、丘、の  
 ぼ、り、て、ま、東、茨、系、の、先、ら、一、隊、れ、ま、る、人、ハ、我、方、武、家、の、標、あ、り、必、定、  
 こ、ろ、今、の、一、人、よ、り、多、る、し、皆、こ、こ、に、屯、し、て、か、う、時、ハ、往、來、を、い、ま、  
 り、用、を、せ、よ、と、て、動、さ、す。正、勝、ハ、既、路、を、倍、し、て、狭、谷、の、北、よ、り、ろ、時、日、ハ

まさしく昇せり。向ふたより肌具足せる男二人あり。正勝が一隊を以  
 て。横たへ遊んともるを。下知して捉へせり。よ。思ひがらるる。此の  
 たり。果して你野心を起し。遊々水はゆるり。及賊を停て。蓋はし  
 強鞭を抽て。まゝうらふを背に撲つ。殺して之を。同者の五なる  
 すなり。君崎強くおきて血を吐かぐ。匍匐逃きて水より。正勝  
 己は狭谷より。新主の愛を思て。大に悲し。大高は我男  
 を称賛し。喜する衣甲は。およびめて。賊をおの後記とさし。め  
 礼を以て神野谷に。陵に葬り。幕居に。依り。佛院王住山に。移して。香  
 火に奉せしめ。我身は。再び十ヶ川の奥に。隠れて。遊し。老を。若く。南北  
 一統し。け。附し。至つて。六十七年。を。同。明。滅。あ。れ。ども。於。餘。勇。送。つ。こ  
 あり。諸葛忠武侯。薨して。蜀。於。治。安。二。十。九。年。の。冬。を。よ。つ。つ。其。尚。武  
 侯の餘徳を知る。南方。意。の。保。不。久。一。い。く。か。石。見。か。立。功。の。操。を。以。兼

て。苦計を用する。大高の時は。暇んで。義。進。する。を。成。功。を。論。じ。し  
 たり。只是。遇と不遇と。原。浅。あり。を。深。さ。い。慕。ふ。不。あ。り。け。し

二七二





入江

# 北直

古今奇談美句冊第五卷

⑧猥瑣道人水品を辨し五官の音を考る話

隠逸の癖ハ身を我ものごとて勤人とする時ハ方域を越えて花江  
 義をおち月の最中も名に成るひてゆめ伎師つれてハ遠き山水  
 の地一遊を幽居は朝暮らるゝてハ一步の地ハ蔓草小滝を  
 下小菊を告ひ須弥を致し納き橋中ハ碁を圍む小室の内ハ二瓶  
 半朶の清香は狼烟を卑と半陸片幅の濃淡ハ幽襟を樂まむ。瀑  
 掃ハ筋力を按摩し晩飯の美食ハ養生す。塵俗の報具なれば  
 自ら猥瑣道人とよび菴を自在と號し。飲を苦茗と親む。時いさ  
 園ハ障廬の好むやあらずを越を叩く人ふ。身ハかくて。今利  
 中。豆ハさし冥加いら小と五音れ人相を施とけ道や去れハきん  
 合せて我より合つとす。後來の合つとやを故わづし。それ成後与

英州氏中續編卷六

りの道義は持てられ人乃心緒を乱る。五倫は害あり。男は後の時を  
<sup>とつて</sup> 来ておのまが望むを以て日しれ。女は今を假してこがせを期を骨法は  
<sup>おのこ</sup> 上古よりす。その中興の陳國南は洒落せし馬明とて。抑揚皆んを用ひ  
<sup>くろく</sup> くる。扱け業こそ人情は近く。敬して相をおるものおほし。さあさへは  
<sup>さうしや</sup> 相者小後の富貴を祈ると。終つとあり。勝つとあり。妻相もなく。無相もふ  
<sup>し。</sup> おろくは長也とも無紂あるべし。衆の擧ある富貴の妻ありて相をお  
<sup>む。</sup> 女はまの相もそよよと。自身トモの相を可くべしといへど。強て清け  
<sup>き。</sup> 是は是を聴相とる小。其言多宮正にて。室家小宮しく。壽等あま  
<sup>し。</sup> と説き与ふ。又一愛人を相して。是下素性出人あり。志も平土  
<sup>こ。</sup> こわらば。今高とおきども。財利はば。名利はば。いと説き与ふ。是等  
<sup>皆。</sup> 皆後小令とる相なり。扱け隠者。平之命。素性とて。富山政長の家。人か  
<sup>王。</sup> 王。送命を承て。子息尚慶。十二は。なれ。大和の奥郡へ。忍むをせ。

六

身ハ出家して名を包ミ。紀の度とつて。不<sup>レ</sup>幽居自炊<sup>レ</sup>けり。幼より  
<sup>葉。</sup> 葉室納言は侍して。才学あり。くまは。流るる。蜷川親長とて。父大  
<sup>和。</sup> 和の傍つ。儒の学は。はくし。餘風親長も。文字ありて。詩歌工あり。  
<sup>櫻。</sup> 櫻の位なる。むら。むら。ちか。と。道人ハ。身ノ之を。擧つ。よ。やと  
<sup>行。</sup> 行。又。素性を。下。好。り。て。か。し。親長が。擧。友。ある。を。羨。む。ら。ぬ。く。年。下  
<sup>ア。</sup> ア。て。云。世。よ。き。人。大人ハ。高屋大慶。坐。して。公。を。逸。し。た。く。も。そ  
<sup>を。</sup> を。て。く。人。よ。遠。け。き。ハ。寂。しく。小。齋。学。室。を。開。き。古。人。の。志。を。後。も  
<sup>あり。</sup> あり。容膝の茶室。ノ。炉。を。圍。て。位。を。さ。が。一。室。支。用。の。辨。易。を。空。ま。し。  
<sup>水。</sup> 水。窓。の。蓋。と。く。金。火。く。ハ。せ。り。狭。室。の。進。退。死。偶。の。風。流。も。珍。しく。山下  
<sup>井。</sup> 井。草。菴。も。光。輝。を。及。ぶ。し。道。途。の。小。船。よ。ま。真。を。新。し。く。小。亭。幽  
<sup>館。</sup> 館。ハ。自。ら。ぬ。袖。の。傍。近。き。は。懐。之。深。さ。ま。で。ど。し。ある。り。の。な。し。ん。下。民。の  
<sup>ま。</sup> ま。ど。こ。こ。己。が。耕。を。畝。の。端。せ。き。居。て。常。に。棧。棚。小。に。迫。り。と。ら。む。

二

既ハ甚レヤと云ふこと。ゆゑに其れは流すも知べし。親長實も迫るる室の内ハ窓の碁偶了と云ふ。云。なによりも物を排列ハ撮四方梅花様と云ふ。右ハ左と云ふ。必用の実態ハ野ニ侵をさす。好幸の意ハ雅ノ親をゆくとも。親ノ用る人多けきバ俗と云ふ。俗も稀ニ見れバ雅ノ混す。天然の山水ハ眼下ニ在りとも人物の掛幅ハ美人教誨と云ふ。とと云ふや。親長云實も山上れ山分んく。舟中れ舟ハ小棹と云ふ。人美ノ教奇常ニ伴像志げあるハ自然あるバ小せん朝夕ノ左右する。個度ハ左小右大と云ふ。儀を兼ね櫃を同くし。神人秀小あまで我乃ニ使役をさす。かくるハ使室の要ニて自在ハ誰もねぐ。云。れハ和尙の自在庵も家を出る名ハあつた。云。是流うハ出家と名を竊めハ。妙初野の回顧る人の乃ニ役けく。塵壘ニ蓋せぬハ。云。

又似て窓の外ハ根ノ一擗せて。袖を摺へき。樹ハ自然ノ瘦せ。細を架の石ハ有る小凸あり。初作其燥て頂を撲へき。低摺あり。身心を降伏して背を踏むの小牖あり。水ハ山後より一流りて。第一義あり。泉源近きハ毒あり。汚漆の流を交るハ深く。井水の居て。地ニ居て。こさあり。流ハ碁ノ一。測ハ碁ノ一。と。そ。云。びら。あ。か。り。そ。め。り。す。自筆ハ書も画も轍を翻せければ。親長一幅を拵を来りて。書畫ニ凝る人ハ人の世も如し。和尙の筆を拵んと。碁ノ掛張。日親の蒲祝故ありて。河内遊佐殿より。拵紙ニ真相乃。鑿堂の。と。根頂是大ニ。佛来あり。貴殿から。と。進で。見。退。て。看。る。雅。致。を。羨。稱。も。そ。ん。ん。を。送。る。示。れ。と。て。諫。包。の。意。ニ。究。め。と。命。あ。ハ。幅。紙。ハ。元。朝。ノ。知。由。子。の。印。色。淺。明。ニ。麻。油。朱。な。り。ず。又。由。紙。是ハ。画友進呈の幅。と。来り。落款。と。云。ふ。後人。擬。名。を。拵。る。

12



新州傳續卷五

落

とこそ思ふやうと。我長才僕かといひもき。初小わらうぬ。高峯歎伏と云ふ。是を以てよふよ世小傳未降つて。鑿は頼て古人の等を欲とら程。心費あるはな。古人の心跡れ因縁乃家よ送らうらハ奇偶と云ふ。一。それを募うて頼せんとまれば。二品三品をくれぐよく欺さ哉。拓く。骨を嘗て良馬到るハ拓くそかき。鑿識一人さこれハ。贗魔一丈高し。傳来を授所とこれハ。証は贗作。鑿金よ人をねざれば。鑿者自を欺さ人を欺く。鑿も亦ねむべう。此と云ふれ。此我長六人の知らる相劔ありければ。は菴よ法で来る。賈人和尚よ托して眼を借らんと。は日從者門よ遷をんで入来を知り。相系す。道人榎を進め。鑿を下し。給はきとめせらる。親長礼讓して先和尚一説と辞する。時俗家よ不勤の恙なきも。粗忽さうら。五音よて試むべし。と。よ別れ休よて先中根。我流ハ。一もさ。銭去。鞆をまを授け。指をい。...

加

こと幾孝。云是。二百年ハ疾と云う。又一腕をえて強くこと幾と云ふ。云。は劔ハ彼より二百年とらう古しと云。親長一劔を把て鞆を放ちて相ら。針樞相理。小地色白く。沸星多く。背うさく。稜なく。二字の銘あるハ。是寛弘の源治行平のお相。是を古作と教べし。今一劔を足ら小。指ありてよ。うか。を強く。刃うさく。と花ふれども古作とハ称せず。是ハ孝後の行平と云。吾和の源治方。實は寛弘を去こと二百年よ近し。五音の術もま。奇なるこれと感。と云。愛人も劔相よりハ。是を妙と。温定成りぬ。と信。一頃山背の宇治の水。石よ。土沙柵れ。肝葉を令せられて。彼よま。か。ハ。飛湯の志なきや。と。誘つる。道人抄。ハ。是の氣を勞ハ。き。ハ。透恨。云。と。云。う。ら。て。山をめぐら。水ハ。中峽を酌て。中焦を治と。又。順流水を用て。下焦を治。急流水の膈を開くれ。氣ハ。河工。う。て。効。ハ。茶を煮。ハ。分。別。名。め。

長才僕か 賣備

五

あつて試みるなり。公ハ美人をきバ。宇治ハ夫を暫もるゝて幸  
 なき。一壺の淺水をえて土儀ニ揚ハレ。彼流ハ鹿飛とて上峽と  
 一。湖水を引テ漸ク峽ニ入キバナリ。志津河を中峽と。宇治橋  
 の級差を下峽とす。此之峽の内ニ世の人下峽を告ぐ。愚ガ欲す  
 るハ是中峽ナリ。志津川と合テ水勢盛アラス。親長是後ノ庸易  
 あらんやとうけがひ多れば。道人甚ビ歎侍テ恙なくやがてこそとておれ  
 ぬ。親長云命をなす。彼よりす。夫ニ舟を引セ。嶮キ所ヲてかりて  
 渡行す。あつての流者ニかろ。け志津川の水こそ。櫻吹花のあつて  
 くり。所ぞと。從川上の柵不まで檢知。己ニ舟を下げ流ニ沿ハ時。  
 此水路ハ名ニあつて。文苑をきバ。景抱ニ奪きて舟を失つ。誰もよ  
 小湖水ハ懐度くして。眼の及ぶる京地多ク。遠望して微の。け宇治  
 此京ハ望を交る不せり。一小園ニ流を引がぬ。そ望却ニ近けれバ。

五孫公子遊賞終えず。吟咏古来多ク。禁裏ニ芳らめてをわよ。あ  
 朝日山ハ。誰も臨テ眺望とく。内位を也けり。遊々。宇治の弱命子  
 の山陵こそ。そけき。網代禁制の石浮回。魏然と響きて。砂洲ニ立つ。  
 時。も山吹の花。比。平等院の。前より。川辺ニ沿テ。橋の小崎の傍へ  
 咲つ。け。ら。日。よ。氣。を。あ。れて。川。際。の。金。色。を。な。す。親。長。見。て。楳。葉  
 の。名。空。一。く。傳。は。ず。と。侍。は。硯。を。傳。へ。め。碓。で。足。を。バ。又。湯。す。逢。一  
 お。そ。と。史。之。方。が。不。禪。流。水。急。唯。恨。盡。遲。來。を。吟。り。て。奥。に。入。り。  
 金風の山吹れ。漱と。吟。せ。人ハ。花。よ。か。は。り。う。ら。き。を。て。瓦。礫。の  
 よう。と。ど。ろ。ろ。と。と。

秋草山吹名有。則有馬黄金不換。今日此時  
 けあひ。よ。急。流。志。ぢ。も。た。ゆ。へ。ず。途。ニ。橋。を。る。て。れ。ハ。舟。子。を。さ。け  
 び。て。今。下。の。舟。を。引。上。げ。と。催。せ。ど。け。急。流。い。づ。れ。よ。ま。う。せん。榎。の

○東州日記 寶曆三

島より。不詮督役殿より。又々急流は遊さんと。よづら一  
 壺の水城汲奉て。上流の水中峡より。中峡の水下峡より。流  
 けきり之の差別あり。と。瑠璃は傾け入る。封を加へる。水調ひ  
 ぬ。監督の業は成し。南紀より。提へて。自ら是を發す。道人  
 峽の印。産し。鍋中より。傾け入る。滴を穿て。呀けり。げ。是を中  
 峡の水な。ん。ま。下峡より。あ。爐。上。せ。茶。を。試。る。及。む。ず。と。壺を  
 圖て。中。中。彼。上。峡。ハ。水。お。ほ。く。水。わ。ら。う。と。土。氣。あ。り。て。守。し。中。峡。ハ。水  
 勞。せ。ど。し。て。土。泥。て。睡。し。下。峡。ハ。拍。滯。り。沙。湧。て。ま。す。く。き。し。且。納  
 實。ハ。中。焦。の。疾。あり。試。し。中。峡。の。水。を。試。て。茶。を。服。せ。んと。志。す。是。下。向  
 ぞ。身。ん。で。服。用。を。澄。よ。す。親。長。大。は。驚。き。と。是。僕。が。上。人。を。試。さ。う。け  
 水。ハ。我。も。づ。ら。汲。て。私。高。の。命。を。守。す。兼。て。近。侍。が。ら。る。て。酌。さ。る。と  
 是。こ。そ。と。流。老。は。持。せ。一。壺。を。石。よ。せて。試。さ。る。と。り。と。道。人。役。ち。教

滴を煮よう。つ。も。滴。を。穿。て。是。こ。そ。と。大。は。收。て。納。め。お。く。親。長  
 を。通。の。室。う。ら。を。感。じ。友。誼。い。よ。親。し。かり。其。比。の。時。近。江。あ。る。石  
 丸。乃。何。某。命。を。守。し。て。兵。隊。の。奮。騰。を。征。す。款。は。加。勢。多。く。却。て。散。り  
 小。お。願。石。丸。も。戦。死。す。畠。山。政。光。大。家。れ。供。して。大。和。竹。井。の。城。入  
 守。し。んと。乃。を。探。せ。ど。往。來。寒。う。て。自。在。あ。ら。ず。大。家。を。る。ハ。不。定。め  
 ず。泉。接。の。壺。夏。の。比。あ。し。ひ。そ。み。め。の。塚。の。高。人。を。藤。屋。の。某。畠。山  
 乃。高。好。あ。れ。を。君。を。守。家。の。忍。む。せ。を。ら。ふ。旅。人。の。体。を。て。く。せ。ら。う。ん  
 と。告。げ。う。け。さ。ば。ま。人。の。遠。ぶ。り。お。て。る。な。れ。ど。畏。ら。ず。衣。着。て  
 私。口。より。毒。女。の。害。れ。る。入。を。守。し。んと。約。し。け。ら。な。ら。ん。政。光。ハ。先  
 二。坊。て。内。庭。に。あ。ら。う。ひ。お。圖。し。て。待。た。る。そ。わ。し。も。雪。降。り。て。小。止  
 あり。け。ま。よ。本。河。と。し。高。人。お。ふ。けて。通。る。あ。い。せ。お。後。の。齒。さ。ま。よ。使  
 くら。雪。を。門。の。板。を。叩。き。さ。ら。し。け。ら。内。より。唯。と。音。よ。政。光。は。音。を

大和竹井 賣扁 卷五

三

職をば。い本音合て官を執る。是身を匿すの信あり。似せて叩く。狂おむと。い内戸には。後役ける。あるの使女。を静ふ。用をえ。より。火いて。さ。傍に。い。手と。拵て。さ。う。れ。奥の。内。桑心。中。屏風。立。圍。より。上。壇。に。渡。なる。政光。抱。う。げ。よ。う。ん。て。後。義。の。み。う。か。い。う。よ。し。て。あ。ね。を。ま。り。し。ぬ。す。べ。い。互。に。身。の。大。き。な。う。と。い。ひ。て。そ。の。身。は。光。が。れ。ま。ひ。し。後。門。に。い。ぬ。女。房。が。ま。り。て。さ。え。も。お。は。せ。あ。よ。と。も。い。う。て。け。り。後。の。様。子。を。あ。ん。と。殷。勤。に。ま。り。て。西。目。を。失。ひ。い。り。う。ら。ま。敷。日。の。化。國。を。幸。ふ。常。に。ま。り。て。さ。故。あ。る。人。を。夜。中。に。招。入。を。い。ぬ。お。ず。も。わ。ぬ。内。方。の。内。入。り。け。り。ま。り。て。さ。罪。に。遇。ふ。づ。一。只。希。い。く。程。役。の。重。い。を。あ。ん。と。告。ぐ。よ。と。ま。り。れ。し。金。包。銀。包。を。出。し。て。贈。り。け。り。よ。い。男。を。い。り。う。文。を。け。り。同。答。あ。る。と。い。と。立。物。の。時。も。も。床。の。棚。な。り。し。一。着。の。着。物を。ま。り。て。ぬ。り。を。そ。時。に。あ。り。さ。り

けり。政光、互にいふ。い。君を忍ぶせなり。逃れんあはせて。教目の。後、筒井の城へ入る。り。つら。が。幾。あ。も。さ。く。君。を。敵。に。解。れ。進。退。を。失。い。山。口。の。所。を。暮。し。用。防。に。あ。り。ぬ。却。て。從。彼。一。着。の。身。を。重。い。を。あ。ん。と。告。ぐ。よ。と。ま。り。れ。し。金。包。銀。包。を。出。し。て。贈。り。け。り。よ。い。男。を。い。り。う。文。を。け。り。同。答。あ。る。と。い。と。立。物。の。時。も。も。床。の。棚。な。り。し。一。着。の。着。物を。ま。り。て。ぬ。り。を。そ。時。に。あ。り。さ。り。い。江。屋。に。い。り。う。そ。の。着。物。を。あ。ん。と。告。ぐ。よ。と。ま。り。れ。し。金。包。銀。包。を。出。し。て。贈。り。け。り。よ。い。男。を。い。り。う。文。を。け。り。同。答。あ。る。と。い。と。立。物。の。時。も。も。床。の。棚。な。り。し。一。着。の。着。物を。ま。り。て。ぬ。り。を。そ。時。に。あ。り。さ。り。お。ど。中。に。我。の。山。改。長。の。家。人。な。り。年。來。平。野。の。花。井。を。討。て。我。世。子。を。あ。ん。と。告。ぐ。よ。と。ま。り。れ。し。金。包。銀。包。を。出。し。て。贈。り。け。り。よ。い。男。を。い。り。う。文。を。け。り。同。答。あ。る。と。い。と。立。物。の。時。も。も。床。の。棚。な。り。し。一。着。の。着。物を。ま。り。て。ぬ。り。を。そ。時。に。あ。り。さ。り。い。て。さ。費用。を。ま。り。て。さ。聚。會。し。て。さ。を。定。め。杉。原。遊。佐。の。く。と。さ。平。野。へ。夜。討。し。て。花。井。を。難。を。く。討。て。さ。早。ね。彼。政。光。と。本。海。と。お。会。せ。ば。一。味。あ。る。と。い。と。立。物。の。時。も。も。床。の。棚。な。り。し。一。着。の。着。物を。ま。り。て。ぬ。り。を。そ。時。に。あ。り。さ。り。



英州名節讀編卷五



英州名節讀編卷五



光本音を知る。そ他ハ一流にて其傍ハよく年一たり。但何個をハ均  
て知らざる。商家此妻女ハ貞室家の相ありて。一時の色類  
無実の名を願ふ。本澤が名をなせ。ハ僅に符合せ。儂は環環  
が相せ。人々あり。水金本ハ空うとる。無情の抱。音ある事。此  
人ハ是活初智を用り。抱。来末の合。うらむ。さかめ。

九 白分の飛運に乗じて大に發達する話

靈場の縁起。曰。信州文科の郡。長谷辺白分といふあり。先祖ハ允  
恭天皇小出。中比の人罪を朝家よりけ地。遷され。今ハ世代後  
に後土の赦免ハ先代に宣下。さか。復友の振奉。も受け。ハ還  
任。さ。雨もさ。一畝の民とあり。貧窮されども。土地の人  
依旧白分と。白素人のさ。か。大友の目あり。民なれども  
大友のま。さ。白。無友のめ。とい。れ。名。な。る。一。幼名を小三とい。

は。上。は。二。位。と。あ。ん。と。隣。の。水。四。郡。司。の。地。に。法。て。ら。る。一  
附搭して。大和の無知の。を。求。求。て。倚。寄。ら。る。身。ハ。獨  
あり。け。ま。も。も。時。の。端。を。け。耕。を。か。く。を。憂。へ。て。泊。瀬。の。親。自  
在。に。移。り。と。年。あ。り。け。本。号。の。靈。應。か。さ。る。と。違。あ。ら。ず。遠。を。の。士。農  
を。す。す。所。か。く。渴。仰。し。て。其。利益。を。求。む。修。く。少。新。羅。國。の。后。妃。不。養  
を。過。り。て。繩。を。受け。ち。吊。ら。れ。て。踏。足。の。地。を。を。る。さ。れ。ハ。苦。し。と  
れ。あ。ま。り。泊。瀬。の。名。成。す。と。不。養。を。改。め。んと。誓。て。遠。く。け。國。の。大  
士。へ。拔。苦。の。助力。を。求。め。り。時。忽。と。て。足。下。に。金。床。を。湧。出。し。一。身  
を。安。ん。じ。あ。ま。り。や。國。遙。く。隔。り。て。死。志。の。通。と。さ。き。時刻。も。さ。き。信  
公。の。感。應。する。と。打。て。穿。の。窟。ら。か。く。あ。る。を。ま。し。て。や。繩。を。さ。け。山  
を。朝。夕。に。移。り。な。り。て。其。験。を。知。ぬ。ハ。或。ハ。日。れ。冠。弁。の。子。孫。小。し。て  
農業。ハ。福。を。妨。る。と。や。豊。年。も。儂。の。妙。に。苦。む。ハ。農。家。な。り。と。農。を。捨



て辭とある。利高利かく。或ハ世家の流者となせハ我より下人か  
。通信の脚力とかきハ位不々定くす。野をち程の茅屋も。亦や  
利をふさささ後ろや福の籠らると。居を南小に廻け西東にトす。或  
ハ名家ハ刺抽をけきども。鼎や古くして。主錢撰より。左刀ハ家傳か  
きども。其劍文身の五行に反さるやと。人かハ極りて改むきと。改  
めぬりのハ朝夕の橙細けきハ安とひ出さる。我名を小之とよぶと。  
福を運するの称はわら。次と太方と改号し。又ハ其風土の人ハ合不  
合わるやと。大和を去て近江にうつり。萬徳神傍のわらうに依り位  
し。いづらある主君を買て京師に負ゆきて。賣ると紙志おれけき  
ども。是そと培と形。世の人乃初瀬の利生をとまると。ハ日月乃  
著明あるがぬくなれぬ。おひい。て。き。を。か。り。う。ん。と。お。ひ。う。う。と。濱海  
より三日の行程を。乃の位宜ハあわて。特地ハ月毎の系信をとひ

十一

ちりる。是も二とせをきねし。其の系信ハ己に系をりて。濱海  
壇に踏て息を納る。けまは甘息する人きまう入事う。幾ぞく乃人  
の中。老する修験道あり。他かきう。法で来るより。を。操。を。始。終。を  
すて甚く恨びす。是下の素姓いうも。世の時。修りて。民の多ハ常なるよ。  
い。わ。ら。う。り。れ。ら。量。を。足。る。不。と。て。今。を。考。へ。と。こ。ろ。志。一。途。な。ら。ず  
して。神を信し。佛を叩き。世人れるも。おひて。迷ひは迷ひて。身をう  
ら。こ。人。を。う。ら。や。之。容貌も。か。け。ら。ら。傷。ま。し。その。い。う。る。あり。俗ハ。時  
や業あれハ命ありと。つを。我。の。道。の。君。の。志。学。を。な。れ。ハ。ま。境。に  
き。う。て。業。を。結。し。む。に。一。冊。の。書。令。書。と。鸞。眼。五。十。綱。を。あ。く。時  
服れ。し。う。そ。逐。ひ。ち。よ。道。を。う。ら。人。を。た。が。し。て。関。れ。東。之。野。の。水  
ま。ぐ。も。け。て。め。ぐ。り。ぬ。る。時。ハ。彼。不。の。土。屋。屋。で。事。を。是。子。を。谷。に。擲。る  
獅子の志を。こ。が。ま。し。く。れ。と。我。生。業。の。常。作。う。て。其。の。字。学。ハ。己。ハ。身

○長州中書局編六五

を憐びづ。世運道理。疾利。拙の怪も南を折り。お守りごとし。まれを  
き。我強を顯したまふ。よそとひおとせらる。亦。む。う。う。う。絶  
えぬ。い。占。ト。の。ま。さ。あ。り。人。の。迷。ひ。を。あ。ら。は。さ。る。や。う。あ。ま。さ。と。そ。う。人。の。迷  
ひ。あ。く。い。廢。せ。る。生。業。の。ま。ま。ま。拙。さ。り。の。い。た。ま。り。奉。人。富。乃。陽。う  
さ。く。美。未。あ。く。積。高。い。ま。れ。も。我。方。つ。ま。す。と。あ。さ。つ。亦。馬。蹄。刀  
を。り。て。瓢。酌。の。裏。に。切。る。の。た。く。切。合。せ。る。や。う。の。み。と。約。し。く。さ。さ。る  
ら。ざ。れ。二。人。の。名。書。も。弁。な。う。ぬ。を。い。ん。せん。道。度。さ。り。の。を。連  
累。あ。り。世。の。困。樂。の。拙。さ。あ。ら。は。せ。ら。安。居。の。交。り。少。き。よ。依。る。連。累。を。相  
と。も。せ。ず。安。居。錢。十。分。れ。り。と。も。と。も。苦。公。三。年。と。れ。ば。放。心。  
代。と。ぶ。い。さ。れ。ど。方。伯。子。を。拙。く。の。富。を。城。よ。あ。ら。ぶ。う。び。と。か。ら。る。左。万  
云。富。よ。い。定。る。業。ふ。い。材。質。よ。定。る。ま。た。い。何。を。業。と。せん。忠。子。文。を。相  
て。治。は。せ。と。同。ふ。山。伏。云。我。今。是。下。の。あ。ら。は。ひ。を。終。ま。り。教。切。れ。い。

思。く。く。い。占。ト。を。説。ふ。正。一。か。じ。ト。者。ハ。知。己。を。り。し。義。士。ハ。生。む。を  
難。ら。是。下。ハ。妻。あ。ら。や。い。ま。い。山。伏。云。い。ま。い。妻。を。け。れ。ハ。人。家。の。運  
定。ら。ず。孝。ら。よ。そ。か。あ。ら。は。子。く。納。め。り。客。を。そ。と。む。り。幣。を。求。ら。う。云  
只。是。利。あ。ら。バ。碓。ハ。い。と。ハ。ず。山。伏。云。是。你。の。今。日。れ。見。た。り。一。時。の。花。々  
子。孫。の。榮。ら。各。を。致。ひ。あり。今。を。悔。く。を。窮。め。ん。ハ。富。を。有。つ。と。禍  
水。財。史。を。滅。し。ハ。池。の。水。面。を。見。て。淺。山。の。在。る。を。さ。ら。る。一。客。ハ。ぬ。人  
の。徳。が。う。略。え。う。ぬ。一。麻。曼。と。婢。婢。と。襪。一。掬。は。盈。さ。ら。ハ。妻。家。の。選  
あり。是。も。三。代。の。外。ハ。和。教。ふ。一。座。詩。の。外。ハ。詩。か。一。と。つ。み。か。め。く。ま。て。  
其。ハ。近。き。を。求。る。ハ。教。も。信。も。ま。い。ハ。あ。ら。は。様。の。唇。柳。の。鏡。を。れ。く。  
あり。西。施。あ。ら。て。聲。よく。褒。ぬ。の。こ。う。く。あ。ら。は。や。う。眼。顔。鼻。口。拳。依  
柔。媚。一。を。の。ん。よ。可。あ。ら。あ。を。ら。て。顧。盼。の。好。看。と。せん。の。何。ぞ。必。ず  
恙。ゆ。つ。い。を。ま。い。ん。農。家。ハ。足。大。ハ。骨。を。く。し。て。勞。は。堪。へ。一。高。家。ハ

○美州父中言編三二五

記帳ありて理よきこととて銭をとり。お生業の越へいりあるや人の多  
くおざることとて利多かん。其令花とく奥に買て京師に賣らう。白  
藤義隆の馬坊小求て中ふらう。頼り。唐土に買て賣らう。一  
整千錢にあり。赤銅は次に買て。は玉の銅を任那新羅に賣らう。せ  
は快利あり。山伏云。西去りしより赤銅をいり。彼地は水路便  
なり。山途運送難し。國大に南小遠く。小國は産南國の用は及ず。却  
我小の船路便にあり。買て南國の用は充つ。是志う。私の賣買は  
あつ。比湖水を飛跨の見後をやめてよ。是下には近江に賣て泉和ふ  
賣らう。れ活業をありぬれ。むう。か。の茅一根より利倍をとり。れ  
柑子一盆を賣買は代り。符の天福はあり。我はを救をトセ  
ん。我トは法世にあり。今日ある人の法は。靈場の奇偶あり。  
ち地は縁て本教をあり。観音の応現は三十二あり。トは多敷ハ

除くへ。ハハ奉初乃極敷あり。三ハ時と日と刻あり。八拂ひよ。こ  
ひして初ハ除く時ハ七を刻を。是下は七色の化貨あり。を  
万の敷て。云。實は七色あり。志う。ハ。中にて歳の退き。就へ。  
牛は跨りて奔り。る。す。ま。ま。つ。らん。脊層を。ハ。は。月。幸  
あんの。太万を。此。瑣。細。ある。一。粒。とい。は。も。是。即。ち。観。音。の。告。を  
う。せ。の。ま。ご。と。敬。して。是。を。謝。し。別。を。お。せ。う。それ。より。そ。初。瀬。乃。傍  
辺。森。と。い。ふ。そ。知。音。の。人。説。合。して。妻。女。の。縁。あり。由。來。を。さ。は。め。と  
とい。は。も。人。相。ひ。く。ト。者。の。言。を。も。あ。れ。は。是。銭。娶。り。一。渡。海。は。攻  
ま。う。は。ま。一。人。の。説。老。を。え。く。と。傳。へ。雲。雀。と。い。ふ。力。強。く。し。て。勞。を  
辞。せ。ず。當。て。大。山。寺。に。二。五。小。形。て。力。を。ゆ。く。ら。う。と。ぞ。右。万。店。を。開。て  
七。種。の。物。を。居。く。 四。作。 乾。蔬。 柑。子。 串。鮑。 青。魚。子。 麻。布  
蒲。絮。 開。店。の。夜。を。万。が。及。ま。妻。女。の。後。に。十。五。人。の。童子。送。て。家。に。來。る。

十一

英州...

三

夢

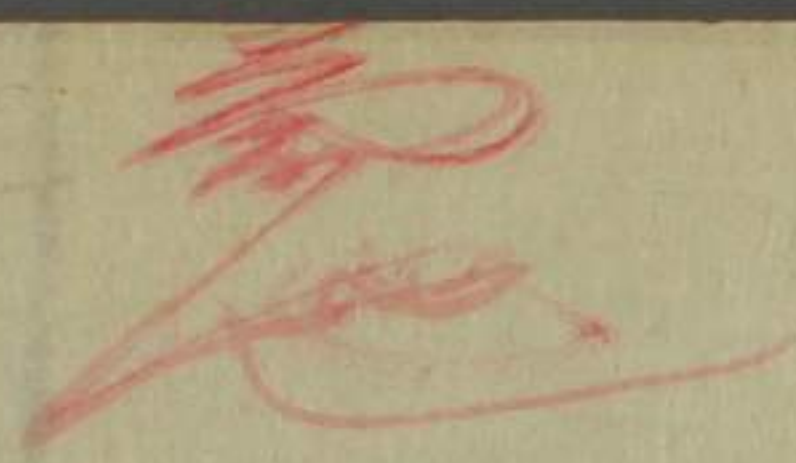
そ中ハ八人諍して来る。七人ハあると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も

夢

殖を志つれども。庫蔵の貨ハ世は多き時ハ價を減し。久しく留むま  
ハ財を塞ぐ。土地はゆばと云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も  
七人の子傍に侍ると云ふ。一は買て妻に於れば。我も

○英州文巾 古蹟編 三 五

對せん。白々勝るハ領地のまふ。福部萬束の地を永代とす。一領家  
勝るハ米士方斛を白々出さる。一と式を定む。白々は戦で妻よ  
かろ。領家の濫るあるは清く夢よ。妻云是ハ片鄙うて。告政も普  
く行つて。す。さ。さ。の胡乱も行つて。か。勝。負。ふ。く。も。材。實。ま。ま。く  
奪ハ。さ。ん。も。知。る。く。く。は。速。よ。け。ま。を。ま。く。も。や。と。雜。具。奴。婢。を。棄  
て。儲。る。知。考。の。水。内。の。郡。司。へ。立。の。さ。り。る。文。級。を。啖。水。内。上。告。て。  
白々ハ我。郡。上。先。代。より。た。迂。の。氏。族。あり。他。郡。上。迂。さ。り。ず。さ。さ。後  
土。波。さ。く。一。と。命。を。傳。ふ。ま。ぬ。計。り。て。不。論。勝。負。も。乃。よ。な。ら。ハ。け。郡。上  
て。對。と。ら。う。事。ら。て。海。う。ま。う。た。く。と。そ。と。水。内。上。中。々。上。け。上。ハ。勝。負  
さ。さ。一。執。証。ハ。我。郡。あり。と。力。を。そ。く。あ。郡。司。誓。約。の。文。を。立。隣。邑  
安。雲。の。郡。司。を。請。て。証。人。と。さ。一。あ。方。お。の。く。角。力。を。募。り。聚。め。け  
る。よ。先。水。内。上。より。相。撲。ハ。並。さ。さ。の。儀。儀。を。く。ろ。坂。の。飛。子。岩。の。の



の。鋸。ハ。か。と。先。集。る。文。科。ハ。美。て。の。備。一。也。領。家。より。近。は。よ。え。く。と  
て。本。も。服。の。さ。り。り。く。く。の。流。あ。く。川。の。凝。結。は。あ。り。の。虎。太。夫。こ。い。ま。り  
の。敵。を。先。と。く。屈。強。の。骨。柄。の。さ。ら。く。く。強。さ。は。度。し。て。下。よ。よ。立  
表。裡。を。以。て。勝。人。と。さ。る。ぞ。身。壯。あ。き。對。し。水。内。の。方。一。大。の。男。二。人。身  
れ。毛。脊。く。對。し。た。ら。ぐ。出。來。り。於。て。業。忠。入。及。の。門。弟。な。り。若。老。を  
招。て。け。勝。負。を。啖。て。さ。り。と。云。を。綽。号。を。同。へ。と。も。中。さ。ず。名  
ハ。さ。ら。く。と。て。よ。び。め。と。り。下。つ。が。ひ。を。試。る。力。量。を。さ。り。と。さ。り。と。云  
晴。角。力。や。と。て。於。羯。羅。制。多。伽。と。名。づ。け。ら。水。内。方。是。に。競。ひ。て。保  
登。り。う。ひ。く。定。日。な。ま。さ。ハ。市。廣。代。引。ら。南。壇。の。東。西。に。屯。す。據。據  
の。中。央。に。諏。訪。の。内。社。を。勅。遣。し。館。の。代。人。を。郡。司。安。雲。郡。行。き。道。希  
を。掲。げ。て。隠。さ。り。九。一。團。の。妻。女。を。お。れ。來。り。ん。さ。る。ハ。か。り。郡。署  
乃。行。司。さ。り。の。あ。人。壇。上。う。八。方。を。お。一。條。目。を。讀。を。さ。り。正。西。に

カ

○先中代中 實備年五

二五

六



大相撲

十一



大相撲

十二



七 北榮

立てるを柱さ同音より。今年のお撲は大家賭相れ乃に発起し。即漸  
園繁昌の瑞兆なる。抑は業ハ神代より習来し。勝んとして喜ぶる。  
人情本位の感さあり。朝霞の始ハ野見蹴速の後ニ節舎とたる。座  
土よを舎を錦標社とす。それお撲とハ互にお推て力術をたく  
ら。彼がまうくハ急ハたじ。彼が勝手はすまハせじとさるれこと  
むなり。世より人小不況をすまふといお撲の音より起るとも承る。傍  
も願も徳を失はす。土地安静の内祈待たなりと。謙を叙て壇をく  
ぐり。やぐて方より對ハしむ。西の屯より着る。東より鉄八壇上のぼ  
る。行目名乗を扱んとする。附東の賭方の家僕雲花壇上より。鉄八  
を引さげて我合人といひ。瘦る素の男なきは凡人大胆者と恐む  
もあり。壇をおりよとせむもあまど。雲花引色見えず。是こそ究め  
て何を扱むと。と云ふ。司より白め退せしと判されどもあらず。

仍司よりけ人の身をもろよお撲せし人なり。一対ハ彼よりまうせよ  
と。鬨を濁して立合せ。まもや對いし。着る。内さありて。目ごと力を  
ひきて對をころろ見る。雲花も不存あま。バカ乃程を見せず。たぐひ  
よかけり。まも。わむらほどぐり。着る。ふ十を入りし。とてハ閃と  
わく。まも。甫む。勢ひ。けりて雲花も。はく。倒て。湯場の笑ひを。湯う  
しむ。雲花今一對して勝者を定めんとす。まも。一對之。事の定めら  
まも。て。ゆる。さ。やぐて。西より。教無壇の上。まも。東より。くら。上る。ま  
方魁偉小山の如く。見ぬ。目も。獅子。虎。わ。それ。腕。や。と。采  
る。まも。對。う。と。まも。教無。まも。寒。まも。勢。奔。雷。れ。如。え。け  
れ。を。壇。の。端。より。う。て。くら。腕。を。度。て。彼。肩。を。一。排。す。教無。右。脚  
踏。て。左。脚。費。合。踏。う。て。套。を。出。て。倒。る。まも。力。あ。る。と。存。考。虎。を。お。の  
雄。威。も。か。く。や。と。ん。ぬ。まも。くら。まも。か。く。強。け。まも。せい。と。う。まも。と。と。ひ

（七）北榮

二二

中ら。己よか子のお撲よりして。双方壇より。西の虎ちま。東のせい  
 たり。いげきも當時の機をさへめられ。ハ霸王各山。運の勇あり。時  
 よま。雲飛壇より。虎大ま。對せんともむ。行目焦燥て。か  
 命も。ずやある。是為常れ。款子とも。撮まれ。碎けぬ。一迷  
 壇を。り。命をつぎ。いと。叱る。云。是。大。の。勝負。を。い。ん。の。合。せ。と。ま  
 らす。賭金。より。も。こ。を。て。勝。も。負。も。ん。ま。る。べ。い。と。り。さ。あ。り。合  
 せ。と。と。部署。承。り。時。文科。ハ。お。撲。の。定。事。と。上。下。の。細。事。と。の  
 ち。ま。い。め。や。さ。い。ん。ん。ん。壇。を。踏。り。あ。ぐ。り。雲。之。松。と。勝。負。を。定。ん  
 とす。領家。より。も。運。を。さ。い。は。是。を。こ。ま。の。勝。方。と。約。し。合。て。行。司  
 己。よ。醫。術。を。揮。て。力。勢。を。叫。び。希。後。た。右。を。回。り。て。目。を。放。す。是。こ  
 ぶ。先。よ。雲。之。松。が。子。格。を。知。り。て。只。取。と。て。倒。さん。と。す。り。雲。之。松。小。材。よ  
 身。ハ。只。電。の。如。く。右。よ。ま。り。た。よ。う。つ。る。あ。ら。ふ。を。え。て。身。を。固。め。て。動

ぶ。遂。よ。身。の。傍。を。入。て。双。子。插。て。ゆ。く。と。か。と。つ。く。大。力。よ。こ。と。わ。れ  
 て。自。在。あり。ぬ。雲。之。松。這。個。が。兩。臂。を。緊。く。拘。住。て。眠。り。ぬ。く。這。う。く  
 敵。を。老。す。是。柔。術。の。も。を。宮。務。之。用。と。れ。あ。ら。ぬ。も。最。も。よ。入。あ。ら。力  
 を。出。す。と。あ。ら。ず。俄。と。數。の。喰。ひ。あ。ひ。と。と。志。を。い。る。内。雲。之。松  
 氣。を。強。て。力。を。急。減。出。云。と。一。筋。を。い。き。長。息。を。伸。り。と。一。尺。を。う。り。一。身  
 此。肉。懐。起。て。毛。谷。を。ほ。金。剛。の。暴。ら。る。も。新。や。と。紐。ひ。み。成。拂。ひ。ま。り。下  
 撞。よ。機。れ。あ。ら。ふ。眩。ま。て。踏。直。さん。と。す。る。不。を。頂。平。叩。れ。ま。り  
 か。よ。跳。り。縮。む。是。を。い。ん。て。百。千。万。人。喝。采。太。よ。動。き。湧。て。お。撲。ハ。敵。一  
 々。領。家。が。く。懐。く。向。む。と。と。も。之。那。の。誓。約。よ。輕。き。う。れ。ハ。愛。り。す。と  
 叶。も。後。及。や。領。地。を。銚。お。漏。よ。及。バ。收。公。の。例。な。り。遂。よ。領。家。乃。半  
 分。を。水。内。より。檢。地。して。清。め。ぬ。文科。の。た。と。も。い。の。外。く。す。と。ら  
 こと。に。お。よ。ぶ。二。度。の。真。行。と。い。も。よ。す。彼。こ。ん。せ。い。と。り。も。領。家

（長州文書）

F

の同者にて言ふくやて竟に負さずべきに候ありしを。是偏に雲霧  
が出生を祈りて金剛の加護より勝をゆるりて。是より七  
地の人白ゆも老とよび。今や實に是天然素封のめなぐし。女房  
六人乃男子を奉ぎども。雲霧をお獲と祈り。長子をそれが子に  
寄ハせる料ある本家を持たせ。又子成ふ所は家して是をみ方の  
長者と人呼ぶ。かくおまはる事足らざるに。白ゆハは老の老名に  
拘りず。諺に未富してよく富みのハ字を全くせず。山國に任バ  
必に氣地へて大志を遂へる。地をゆるきハ安定を足りて。抽  
乃柴を失ふべしと。賭に勝る地を敵に返し。入を領家の配女小よ  
アて海辺の地成えり。紙の漉治に移り任之。又級と貨抽を往來。  
其上農家商人山林ハ衣食の系あり。是と互に貨を通せられ。美  
抽饒あぐすと。又子成役して決ふ。通船して交りする。は従とて  
して利あり。財蚕紙に載つるハ大利に非ず。聚寶盤  
よ登すべしハ大富にあり。有とてつるハ其の有にあり。白ゆ  
包る依の金銀浪沙通國にあり。家業月と日小盛人あり。傍  
不を去る。記し候り。

十  
九

古今奇談著向冊第五卷 終

古今奇談著向冊第五卷

古今談  
英草紙

全部五冊  
先達發行

英草紙  
後編  
繁野話

同  
五冊  
同斷

義經磐石傳

同  
六冊  
近日出来

天明六年丙午正月吉日

心齋橋筋順慶町八入  
柏原屋清右衛門

博勞町八入  
同  
重兵衛

博勞町井池东八入  
同  
嘉助

心齋橋筋傳馬町八入  
同  
佐兵衛

順慶町南八入  
同  
庄兵衛

南久寶寺町南八入  
同  
河内屋八兵衛

# 浪華書林

